

平成 25 年度「全国学力・学習状況調査」における  
大宮中学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成 25 年 4 月 24 日（水）に、3 年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にさせていただきたいと思います。

1 調査の目的

- （1） 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （2） 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- （3） 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第 6 学年、中学校第 3 学年の原則として全児童生徒
- ・大宮中学校では、3 年生 141 名

3 調査内容

（1）教科に関する調査

| 主として「知識」に関する問題<br>【国語 A・数学 A】                                                   | 主として「活用」に関する問題<br>【国語 B・数学 B】                             |
|---------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| ・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容<br>・実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能など | ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力<br>・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など |

（2）児童生徒質問紙調査

|                              |
|------------------------------|
| 児童生徒質問紙調査                    |
| ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 |

## 平成25年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大阪市立 大宮 中 学 校

生徒数

141

### 平均正答率 (%)

|     | 国語A  | 国語B  | 数学A  | 数学B  |
|-----|------|------|------|------|
| 学校  | 65.8 | 55.5 | 53.6 | 29.8 |
| 大阪市 | 72.2 | 61.0 | 59.6 | 37.1 |
| 全国  | 76.4 | 67.4 | 63.7 | 41.5 |

### 平均無解答率 (%)

|     | 国語A | 国語B | 数学A  | 数学B  |
|-----|-----|-----|------|------|
| 学校  | 8.1 | 8.4 | 12.8 | 29.8 |
| 大阪市 | 3.6 | 4.7 | 7.2  | 20.9 |
| 全国  | 2.4 | 2.8 | 5.3  | 16.7 |

### 結果の概要

国語において、主として知識を問う国語Aは大阪市に約6%、全国平均に約10%及ばない。主として活用力を問う国語Bでは大阪市に約6%、全国平均に約10%及ばない。  
 数学においては、主として知識を問う数学Aは大阪市に6%、全国平均に10%及ばない。主として活用力を問う数学Bでは大阪市に約7%、全国平均に約12%及ばない。  
 生徒質問紙の回答において、「朝食をほとんど食べない生徒」が13%と全国平均の倍以上の数値であったり、「家で宿題をする」が30.5%と全国平均の半分以下の数値となった。

### これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

全国学力学習実態調査の国語・数学の結果は、開始以来、大阪市・全国共に下回った数値になっている。個別学習において、ていねいな指導を行えば理解できるが、通常の一斉授業となると、とたんに話が聞けなくなり、授業に集中できなくなる生徒が多い。熱心な教職員が多く、早朝学習や放課後の補習・定期テスト前の補充学習などに熱心に取り組んでいるが、基礎学力向上になかなか結びつかない実態である。宿題の提出率の悪さや家庭での復習の不十分さなどに見られるよう、家庭における自主学習が全くできていない生徒が大変多いことを表している。教科指導において、ICTを積極的に活用し、生徒の興味・関心を呼び起こす授業の創造であったり、グループ学習の導入により「協動的な学習」を構築していくことが「教え方」を変革する処方となる。しかし、生徒の「学び方」を成長させない限り、本格的な基礎学力向上にはつながらない。中学校にとどまらず、学校協議会会の協力のもと地域への啓発はもとより、小学校との連携を今以上に強めながら、小学校学習における基礎基本の定着や粘り強く問題に取り組む姿勢の育成等に努めていきたい。

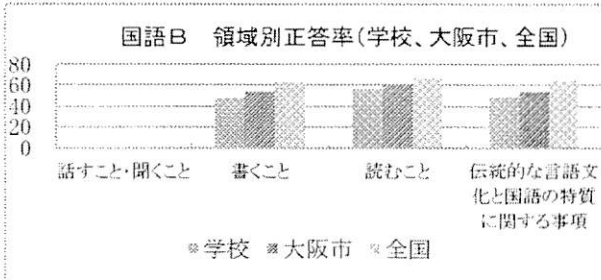
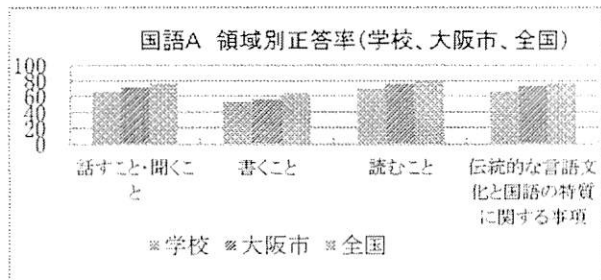
## 【国語】

### 結果の概要

A問題については「話すこと・聞くこと」が10.8%、「書くこと」が11.1%、「読むこと」が9.3%、「短答式」の問題が13.6%全国平均より下回った。B問題は「国語への関心、意欲、態度」が14.6%、「読むこと」が11.5%、「言語についての知識・理解・技能」が15.7%、問題形式が「記述式」の場合は14.6%全国平均より下回った。

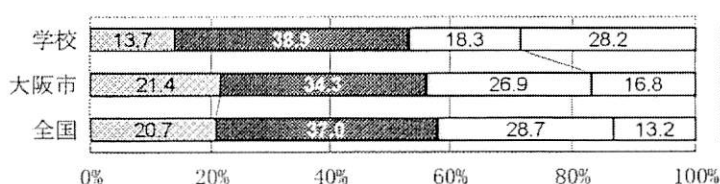
| A 問題           |                      | 平均正答率(%) |      |      |
|----------------|----------------------|----------|------|------|
|                |                      | 学校       | 大阪市  | 全国   |
| 学習指導要領の<br>領域等 | 話すこと・聞くこと            | 4        | 66.8 | 73.1 |
|                | 書くこと                 | 4        | 53.4 | 57.3 |
|                | 読むこと                 | 6        | 70.7 | 76.8 |
|                | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 18       | 66.7 | 73.9 |

| B 問題           |                      | 平均正答率(%) |      |      |
|----------------|----------------------|----------|------|------|
|                |                      | 学校       | 大阪市  | 全国   |
| 学習指導要領の<br>領域等 | 話すこと・聞くこと            | 0        | —    | —    |
|                | 書くこと                 | 3        | 48.1 | 54.0 |
|                | 読むこと                 | 8        | 56.3 | 61.9 |
|                | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 1        | 48.9 | 54.2 |

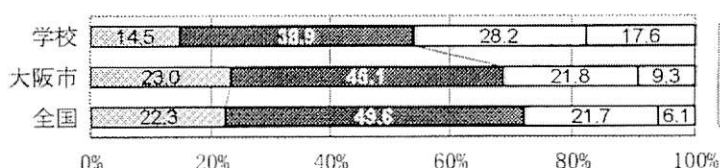


## 国語に関する「生徒質問紙」

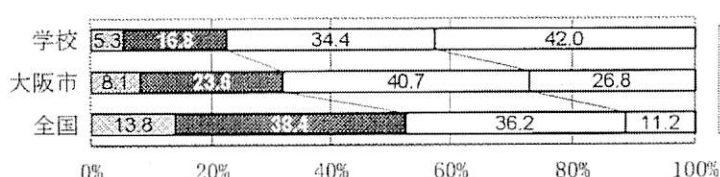
|                   |
|-------------------|
| I 53 II 52 III 63 |
| 国語の勉強は好きですか       |



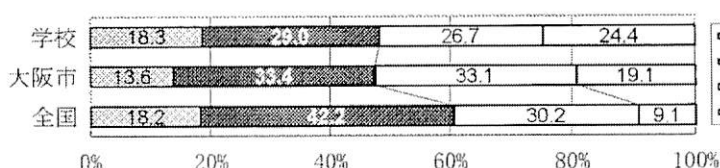
|                   |
|-------------------|
| I 55 II 54 III 65 |
| 国語の授業の内容はよく分かりますか |



|                                         |
|-----------------------------------------|
| I 58 II 57 III 68                       |
| 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか |



|                                           |
|-------------------------------------------|
| I 60 II 59 III 70                         |
| 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか |



## 成果と課題

成果ではなく、課題ばかりが目立つ結果となっている。「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由がわかるよう気をつけて書いていますか」が大阪市平均を少し上回っていたことが唯一の成果らしい成果といえる。

## 今後の取組

漢字習得に関しては、引き続き週1回の漢字テストを実施していく。また、ことわざや四字熟語の意味についても小テストを実施し語彙力の向上に努めていきたい。また、文章を書くことについて、文脈の流れなどの指導を重視してきたが、何から書き始めるかなど、文章そのものを書くことに対して抵抗を感じる生徒が多かった。今後は書き始めの文章の指導にも力を入れるなど基礎・基本の指導をより徹底していきたい。

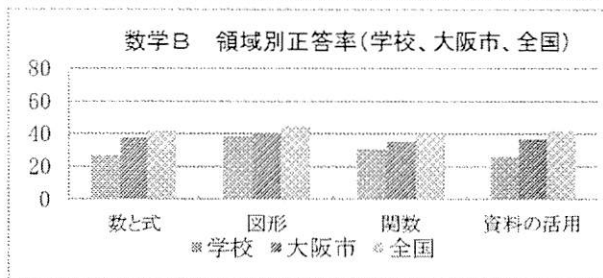
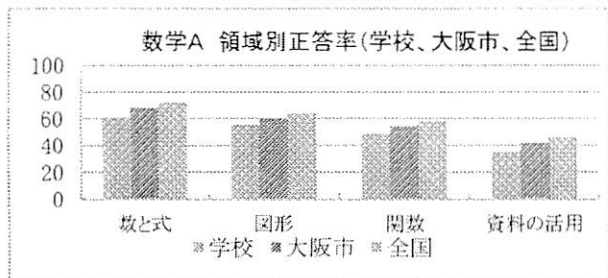
## 【数学】

### 結果の概要

A問題は「数と式」が11.4%、「図形」が8.6%、「関数」が9.5%、「資料の活用」が11.5%、「数学的スキル」が11.6%、「数量や図形などについての知識・理解」が8.5%、問題形式が「短答式」は10.8%全国平均より下回った。B問題は「数と式」が15%、「関数」が9%、「資料の活用」が15.7%、「数学的な見方や考え方が9.8%、「数学的なスキル」が16.8%、「数量や図形などについての知識・理解」が18.8%、問題形式が「記述式」は11.7%全国平均を下回った。

| A 問題       |       | 平均正答率(%) |      |      |      |
|------------|-------|----------|------|------|------|
|            |       | 学校       | 大阪市  | 全国   |      |
| 学習指導要領の領域等 | 数と式   | 11       | 61.3 | 68.6 | 72.7 |
|            | 図形    | 12       | 56.0 | 60.8 | 64.6 |
|            | 関数    | 9        | 49.2 | 54.7 | 58.7 |
|            | 資料の活用 | 4        | 35.3 | 42.3 | 46.8 |

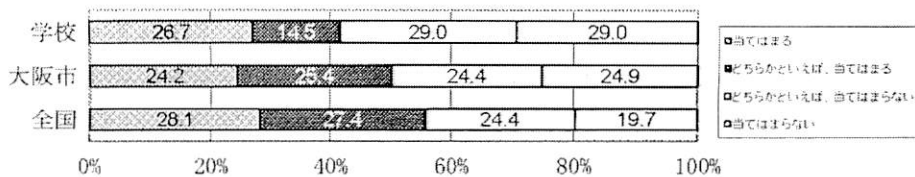
| B 問題       |       | 平均正答率(%) |      |      |      |
|------------|-------|----------|------|------|------|
|            |       | 学校       | 大阪市  | 全国   |      |
| 学習指導要領の領域等 | 数と式   | 5        | 26.7 | 37.6 | 41.7 |
|            | 図形    | 2        | 38.5 | 41.0 | 44.8 |
|            | 関数    | 6        | 31.0 | 35.4 | 40.0 |
|            | 資料の活用 | 3        | 26.5 | 37.1 | 42.2 |



### 数学に関する「生徒質問紙」

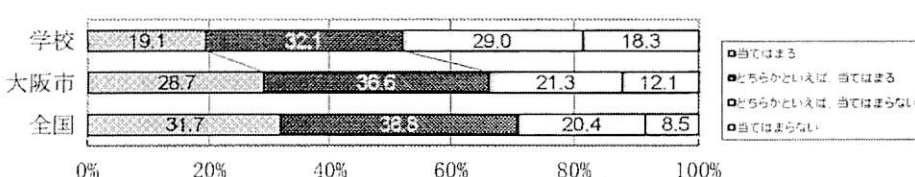
I 73 II 62 III 73

数学の勉強は好きですか



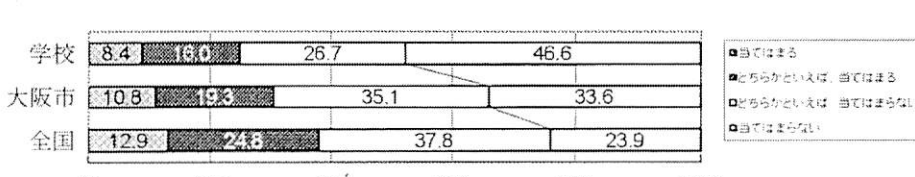
I 75 II 64 III 75

数学の授業の内容はよく分かりますか



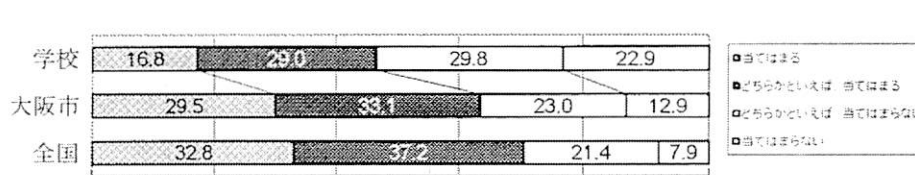
I 78 II 67 III 78

数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



I 81 II 70 III 81

数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか



### 成果と課題

課題ばかりが目立つ結果となっている。強いて成果を上げるなら、「数学の勉強は好きですか」の当てはまるが大阪市平均を少し上回っている点である。証明問題など問題の読解能力も伴う問題については回答率も低い。基礎的な計算問題も簡単にミスしてしまう生徒が多かった。

### 今後の取組

基礎的な数学知識と理解力を上げるため、1年生を中心に習熟度別少人数授業を実施している。また、3年においては、各単元のまとめ、演習として習熟度別少人数授業を実施している。ただ、基礎・基本の充実にはまだまだ至っていないため、日々の放課後補習学習も実施している。今後も計算力の定着に向けて地道な反復練習を行い、補習学習等を通じて粘り強く問題に取り組む学習姿勢を育成する。

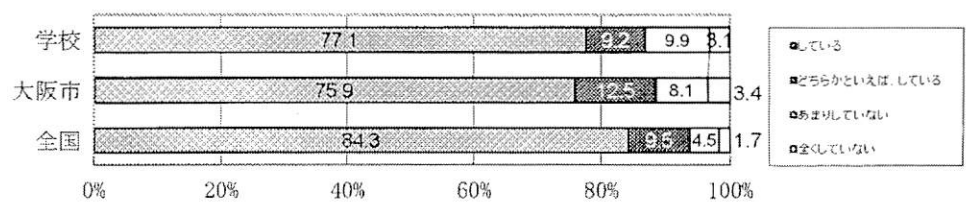
## 基本的生活習慣・自尊感情・規範意識

### 結果の概要

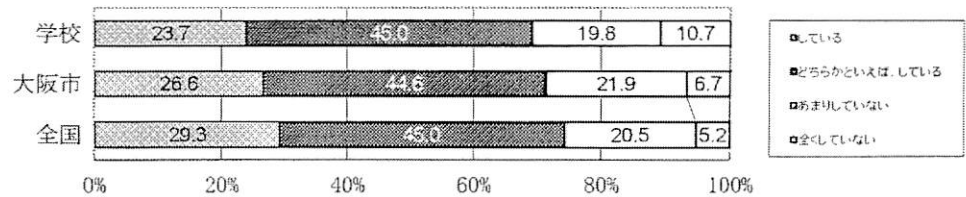
「朝食をほとんど食べない」が13%もあり、全国平均の倍以上の数値となった。「決まった時間に寝る」生徒が69%で全国平均より5%ほど低い。「自分には良いところがある」は21.4%と大阪市平均と同じ数値であるが、どちらかといえばも含めると全国平均を10%近く下回った。また「地域や社会で起こっている問題や出来事について関心がない」と答えた生徒も42.7%と全国平均の16.7%を大きく上回ってしまった。良い結果としては、「家の手伝いをよくする」が27.5%と大阪市20.1%、全国23.7%を上回った数値となった。

| 質問<br>番号 | 質問事項 |
|----------|------|
|----------|------|

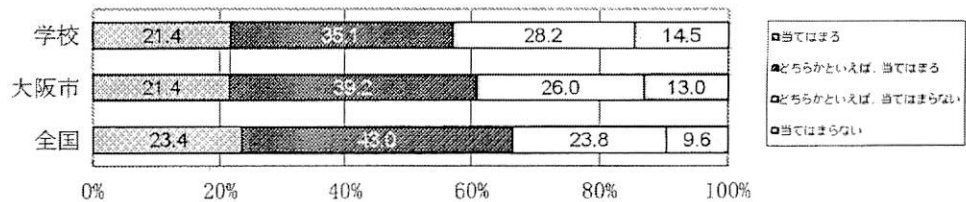
| I 1          | II 1 | III 1 |
|--------------|------|-------|
| 朝食を毎日食べていますか |      |       |



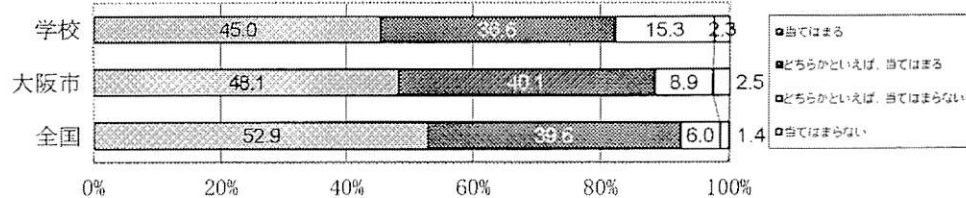
| I 2                | II 2 | III 2 |
|--------------------|------|-------|
| 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか |      |       |



| I 6                 | II 6 | III 6 |
|---------------------|------|-------|
| 自分には、よいところがあると思いますか |      |       |



| I 44          | II 41 | III 45 |
|---------------|-------|--------|
| 学校の規則を守っていますか |       |        |



### 成果と課題

「毎日朝食を食べていますか」と「自分には良いところがあると思いますか」で当てはまると回答した生徒は大阪市平均と近い数値となっている。ただ「朝食をほとんど食べない」が13%もあることも忘れてはならない。つまり、食生活において二極分化が進んでいることが伺える。あと、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」は71.8%と大阪府69.8%全国の71.4%を超えた数値となった。

### 今後の取組

「食育つうしん」を毎月発行し、食生活改善に向けての啓発活動をより活発に行っていく。また、養護教諭を中心に熱中症予防講習を夏の前に実施しているが、熱中症と食生活の因果関係も含めて講習を進めていきたい。社会の出来事への関心意欲に関しては、新聞を読む生徒の割合が大阪市平均よりも多い事実からして、調べ学習や体験学習を通して改善していけるものとする。

## 家庭学習・読書・学びの質の改善 言語力の育成

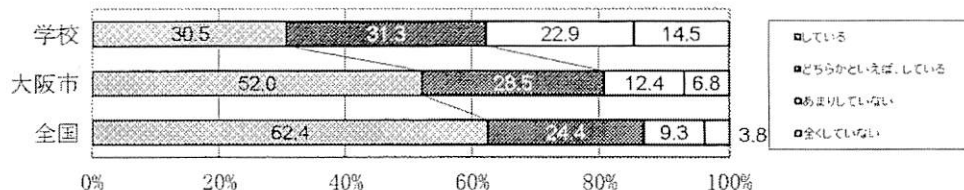
### 結果の概要

「家で宿題をする」が30.5%と全国平均の半分以下の数値である。「家で学校の復習をする」も22.9%と全国平均を25%以上下回っている。一方、「学習塾で勉強」している割合は60%と全国平均を若干上回った数字となった。また「読書は好きですか」の回答も47%で全国平均10%ほど下回っており、「読書を全くしない生徒」が65%と全国平均の36%を大きく上回っている。

### 質問番号 質問事項

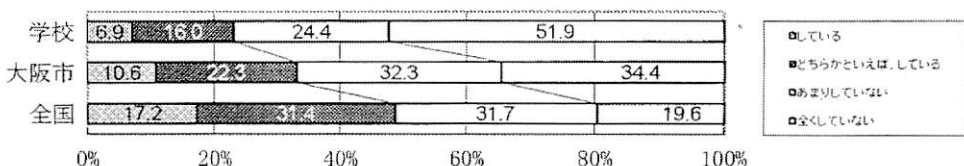
I 30 II 25 III 35

家で、学校の宿題をしていますか



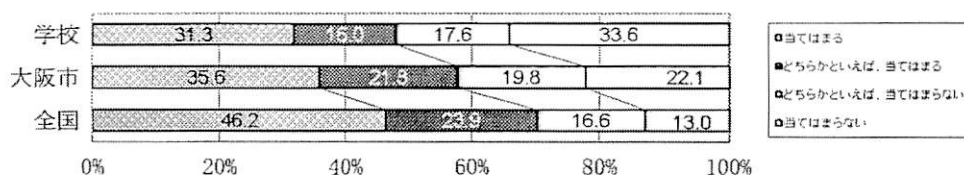
I 32 II 27 III 37

家で、学校の授業の復習をしていますか



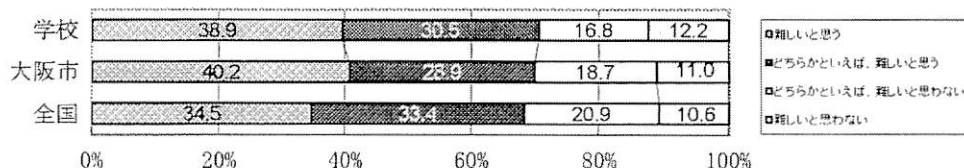
I 56 II 55 III 66

読書は好きですか



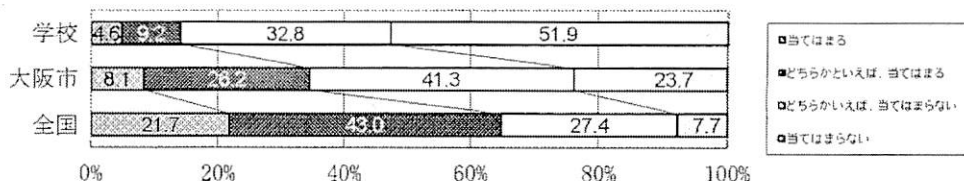
I 52 II 51 III 61

学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思いますか



I 50 II 48 III 57

普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



### 成果と課題

まずは、家で宿題をきちんと行い、復習を中心とした自学自習できる生徒の育成の育成につける。自分の考えを他の人に説明したり、文章にしたりするのを難しく感じない生徒が全国平均より多いのは様々な総合的な学習の成果だといえる。ただ、それが、授業で話し合う活動には至っていないことが残念な結果となった。

### 今後の取組

教科担任による宿題や提出物等の点検活動は丁寧に行っている。ただ、それが生徒にとってはやらされている学習にとどまっているためこのような結果となった。今後は学校教育目標にもあるように、「自らの進路を切り拓き、学習の展開」を達成するためにも、達成感や成就感を味わえる教育活動の創造を目指し、向上心や忍耐力といった力を身につけさせるよう努めていかなければならない。